



食と文化を満喫 産業文化祭を開催

◇産業の部
産業の部は10月31日、みどりが丘3丁目広場で開催されました。

◇文化の部
文化の部は10月30日・31日の2日にわたって保健文化センターと中央公民館で開催されました。

中央公民館では展示発表が行われ、盆栽や手芸品など腕によりをかけた作品が勢ぞろい。その出来栄えのよさに、訪れた人を驚かせていました。31日には郷土芸能発表会を開催。ぼさま踊り、大網音頭や永田の獅子舞など町に伝わる芸能などが披露されました。



美しく彩る秋の風物詩

老人クラブ連合会主催の菊花展が、11月1日からの5日間、役場1階ロビーで開催されました。

り、多くの来庁者を魅了して
いました。



苦労から生まれた 収穫の喜び

あおぞら農園で収穫祭

平成16年の開園から野菜作りを通して、農業者と非農業者の交流を深めてきた「あおぞら農園」で11月14日、収穫祭が行われました。

始めました。

また、収穫祭の最後には、農園敷地内に植えられているキウイフルーツのもぎ取り体験を実施。参加者たちは、収穫の喜びを堪能しました。



ベトナムから

助産師の松橋野笛さん

青年海外協力隊としてベトナムに派遣されている助産師の松橋野笛さんが、自身の経験を通してベトナムを語つてくれましたので、紹介します。

索してきました

初めは、文化も言葉も100パーセント理解し合えない中での活動は、困難と挫折の中でした。仕事を終え帰宅



感じられます。異国での生活は正直辛いこと9割、楽しいこと1割です。その中でも、この1年半、自分がここへ来た意味を同僚に分かつてもらおうと自分なりに伝え方を模

ました。日本での生活だけではなく、気付かなかつた学びもありました。任地にいると、とにかく良く自分の頭で考えます。仕事だけではなく、生活全般も。

ことが出来るのだと痛感しています。残り半年の任期。私の課題は、現地の産婦さんに「スタッフが安全な分娩技術を提供出来る」ということで、解決するまでの課題は山積み

ム、アンザン省フーテン郡総合病院で助産師をしている松橋野笛です。任地に赴任して1年半が経ちました。日々の生活では、時間の経過が長く感じられますが、思い返せば、いるうちに、不思議と理解しえるようになるものです。1年半経過した今では、自分の意見を恐れず、相手に伝えられるようになり、本題の助産師業務の改善に取り組むこ

そして他人の意見を良く聞くようになりました。生活の知識は、現地の人はプロフェッショナルです。

ですが、ここで学んだ何事も
プラス思考と失敗を恐れない
精神でチャレンジしていきた
いと思います。

現地の人は、自分たちのこと
とを「貧しい」と堂々と話し
ます。1年半で気づいたこと
は、現地の人の貧困から脱却
するためのエネルギーとハン
グリ精神は現代の日本は逆
に見失っているものなのかも
しません。

お互いの国を理解し合うこ
とが、国際協力の第一歩な
でしよう。最後になりますが、
半年後、大網白里町で皆さん
とお会いできることを楽しみ
にしています。